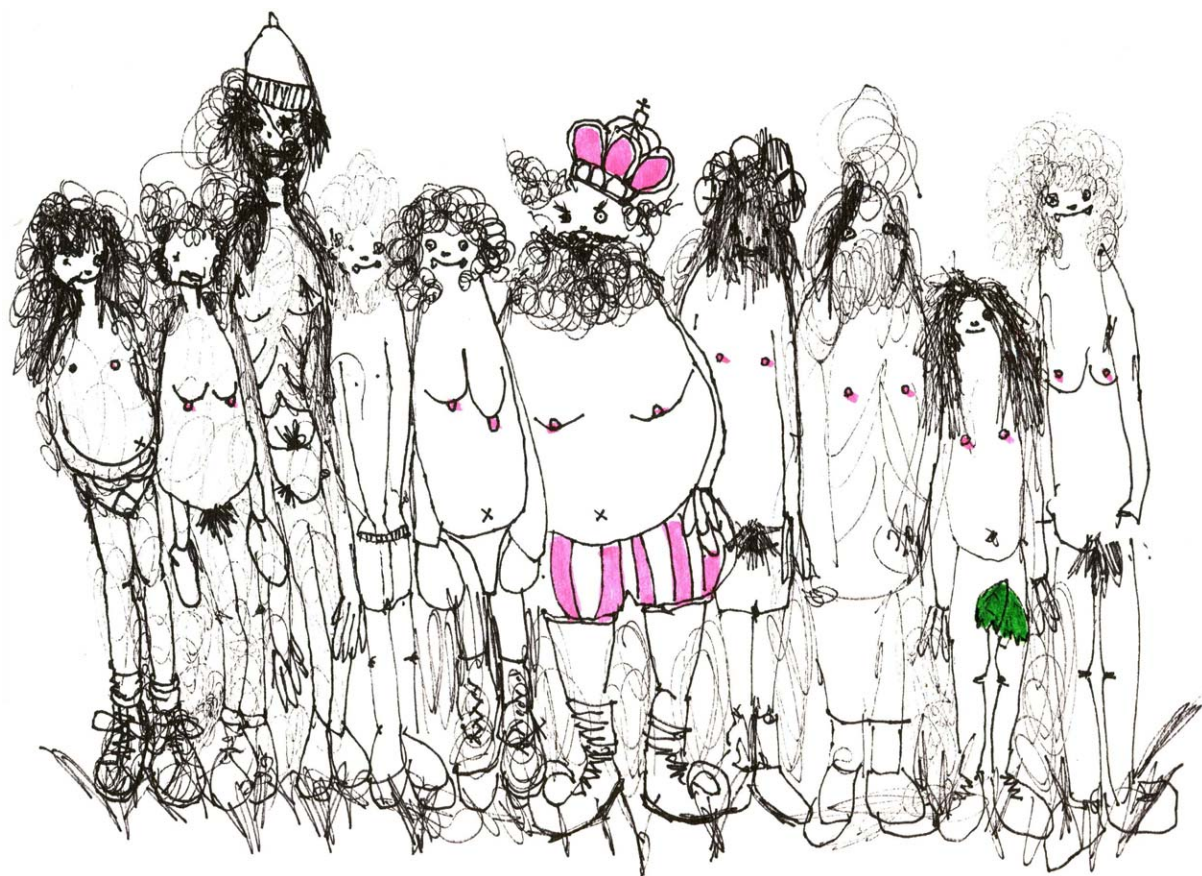


はだかのおうこく

2006 はるなつ ファッションショー
いん
ひのはらほいくえん



日付 2006年1月28日 土曜日

時間 11時～11時30分頃

場所 〒190-0211 東京都西多摩郡檜原村 2717 番地
やすらぎの里 ふれあい館 檜原村ふれあいセンター 多目的ホール

概要 檜原村ひのはら保育園にてささやかなファッションショーを開き、ビデオ撮影を行い、2006年2月13～15日に代々木体育館にて行われる日本最大のファッションの展示会「rooms」において上映を行う。

コンセプト

作品のコンセプトは、新たなファッション表現を意図とし、まず絵本を作り、そのストーリーに基づいたファッションショーを行う事です。ファッションショーはあくまで、絵本の表現の延長であり、絵本への道しるべの役割も果たします。ショーを開いたあと、衣服ではなく絵本によりファッションを表現し、それを販売する事を目的とした、ファッション業界で今までになかったの表現方法を模索した上でのアイデアです。

ストーリーは今年（昨年）生誕200周年を迎えたハンス・クリスチャン アンデルセンの、「はだかの王様」の続きの物語です。

この作品は今年の6月にロンドンのセントラルセントマーティンズ美術学校にて、卒業合同ファッションショーを行われた際に、フィナーレを務めました。

そしてこの度日本に帰国する事となり、新たな表現舞台となる場所を探している際に、東京都檜原村ひのはら保育園という素晴らしい空間に幸運にも巡り会いました。そこで私は子供達の前でファッションショーを行いたいと考えました。

保育園を舞台に選んだ理由は、子供達にとって社会への出発点となるからです。ファッションとは社会そのものであると思います。社会の出発点となる空間でショーを行う事によって、今回の作品が教育という社会的機能を果たせるのではないかと考えました。

また純粋に子供達に楽しんでもらいたいとの思いも込め、このような発想に辿り着きました。子供達には完全な理解を求めるのではなく、うっすらとでも心のどこかに記憶しておいて欲しいのです。

そして彼らがもう少し大きくなった時に、何かのきっかけでこのファッションショーを思い出してもらった時に、また何かを感じてもらえれば幸いです。

ストーリー

この作品を、昨年生誕200周年を迎えたハンス・クリスチャン・アンデルセンに捧げます。

このお話はみんなが知っているあの王様の続きのお話。裸の王様を見た人々は、意外にも王様が着ている見えない服を欲しがらようになりました。そしてその国では見えない服がいつしか流行になり、文化となりました。ファッションショーが毎年のように行われるようになり、人々は新しいファッションを待ち望むようになりました。

そして今日は待ちに待った、最新のファッションショーが発表されます。どんな新しい見えない服が発表されるのでしょうか？

物語に込めたもの

1、ファッションの安易性

王様を笑っていた人々までも、はだかになっていくとう現象を描き、最もわかりやすい表現方法で、その安易性と危険性を表現しています。

2、心で感じとる必要性

目で衣服を捉えるのではなく、心で捉えようとしているという視点で人々を描き、衣服に対してもっと心で感じとることの必要性を訴えかけるものでもあります。

けて一方的に侮辱しているのではなく、どこかチャーミングで、仲の良い哀愁漂う世界感を志しました。

モデル募集

以下のモデルを募集しています。

シャイな大男役	身長180センチ以上の比較的細身の男性
王様役	身長180センチ以上の比較的細身の男性
トランペットを吹く子供役×2	身長140～145センチぐらいの小柄な女性
お化け役	身長160～165センチぐらいの比較的細身の女性または男性
花嫁役	身長165センチぐらいの女性。
カメラマン役	身長175センチ以上の比較的細身の男性。
ピノキオ役	身長140～145センチぐらいの小柄な女性
あばずれブタ役	身長160～165センチぐらいの女性
ジャーナリスト役	身長160～165センチぐらいの女性

体のサイズを確認したいので、お手数ですが一度お越しいただく事になります。
ショー前に何度かリハーサルを行いたいと思います。

以上。よろしくお願ひ致します。

山縣 良和